

# 聖学院大学総合研究所 カウンセリング研究センター 2018 年度 グリーフケア・ルーム 年次報告

## 1. はじめに

心理相談室「グリーフケア・ルーム」（東京都港区）は、2003年11月に聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センターの業務として始まった。

週1日（月曜日）のみの開室ではあるが、15年以上にわたる相談活動を今も地道に続けている。

## 2. 相談概況

### (1) 相談件数

今年度の相談件数はのべ35件、相談者数累計は38名であった。うち新規ケースが8件であった。

### (2) 新規ケースの主訴

今年度の新規ケースの主訴の内訳は、「家族（夫婦・親子）関係の悩み（3件）」「心の病とその対応（2件）」「喪失悲嘆（1件）」「牧師のコンサルテーション（1件）」「燃え尽き状態（1件）」であった。

一方で、時間や場所の都合、主治医や家族との兼ね合いといった理由により、予約をしても実際の相談にはつながらなかったケースもある（4件）。

### (3) 新規ケースの相談経路

- ・過去の相談室利用者からの紹介 2件
- ・牧師からの紹介 4件
- ・家族からの紹介 1件
- ・カウンセラーの講義を受けて 1件

紹介して下さった牧師の大半（3件）は、何らかの形で当カウンセリング研究センターと関わりがあった。

### (4) 今年度の新規ケースは全員がキリスト教信者であった。

### (5) 新規ケースの居住地

首都圏外から来る相談者もいたが（2件）、大半は首都圏（6件）からであった。

## 3. 考察

- ・今年度のグリーフケア・ルームは、藤掛明相談室長、以下2名のカウンセラーで運営し、従来通り月曜日限定で開室した。途中、カウンセラーが1名減少し、相談件数も減少することとなった。
- ・セカンドオピニオンを求めるものや、他者への支援方法について相談するコンサルテーションなどは数回で面接を終える傾向がある。一方で、燃え尽き状態や家族関係の問題など、すぐには解決できない課題を抱えたケースは継続し、その人なりの解決に向けてカウンセリングが進められた。
- ・今年度は、問題を抱えていようと、相談者自身が一人の人間（もしくは信仰者）としてどのように歩んでいけばよいかを模索しているケースが多かった。他にも、先に親御さんや周りの支援者が、本人の来談につながるようにと、いわば相談までの道筋づくりのために来られるケースもあった。
- ・相談者にキリスト教信仰者（関係者）の割合が高いことも本相談室の特徴である。教会（信仰）生活におけるストレスでの悩みなど、信仰と切り離しがたい心理的問題を抱えている場合、それらを一般の心理相談室のカウンセラーに相談することに躊躇される方は少なくない。そのため、当相談室が牧師・信仰者のための相談・助言を標榜し、クリスチャンのカウンセラーが心理の専門家としてサービスを提供している意義はあると考えられる。

（文責：花野井 百合子［はなのい・ゆりこ］ 聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センター心理相談スタッフ、公認心理師、臨床心理士）